

第 37 回理事会議事録

1. 日時 : 2016 年 12 月 16 日 (金) 午後 6 時 30 分～9 時 10 分
2. 場所 : 東京都新宿区四谷 1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル 2F 四谷ブリッジセンター
3. 出席者:【理事 9 名】 鳩山勝郎、伊藤直彦、浅越ことみ、ロバート・ゲラー、
齋藤陽子、清水康裕、寺本直志、橋本公二、山田和彦
【欠席 3 名】 細田博之、大橋正幸、吉田正
【監事 1 名】 成田秀則 (久保公人監事は欠席)
【事務局 4 名】 清水映樹事務局長代行、大政哲人事務局長代行補佐、
鈴木正人競技会事業部長代行、高野英樹普及事業部長
【オブザーバー 1 名】 宮内宏顧問弁護士
(理事現在数: 12 名、定足数 7 名、本人出席 9 名)

4. 議事の経過及び結果

鳩山勝郎会長代行を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 36 回理事会議事録の承認について
議事録案を承認した。

第 2 号議案 公認クラブ申請について

以下の駿河ブリッジクラブの承認申請について連盟広報に公示したところ、2 件の異議申立があり、そのうちの 1 件の申立により静岡ブリッジクラブが水曜日に開催しているゲームと同一の会場、同一の時間帯に開催する事が判明した。これは「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」第 5 条①②に抵触するため、事務局から申請却下の連絡を取ったとの報告があり、これを了承した。

- ・駿河ブリッジクラブ (クラス 3、クローズド)
マネージャー: 加藤洋子
ディレクター: 釣谷雅明
開催日: 毎週水曜日 9 時 10 分～、13 時～
会場: 静岡市清水生涯学習交流館 (静岡市清水区)

第 3 号議案 平成 29 (2017) 年度予算について

鳩山会長代行より 12 月 2 日に業務執行会議と企画委員会の合同会議を開催し、来年度予算案について検討を行った内容について以下の説明があった。
2017 年度は NEC ブリッジフェスティバル非開催年にあたるため、開催年の赤字予算との合計で 2 年間での収支均衡予算を目指している。現時点では単

年度でほぼ収支均衡となったが、今後企画委員会を中心に内容を検討する事になった。

伊藤理事より連盟の活動に対する企業スポンサー獲得を目指す提案があり、今後企画委員会で検討を進めることになった。

齋藤理事より普及事業部業務執行会議で決定した普及事業部の予算案から約350万円の費用削減があり、その経緯の説明を求める発言があった。これに対し12月2日に開催された業務執行会議に提出された予算案は大幅な赤字のため、12月理事会に提出する際には少なくとも収支均衡となるように指示があり、理事会に合わせて予算案の見直しを行ったと回答があった。

宮内弁護士より予算案の修正については各事業部の担当理事の承認のもと行うべきであると発言があった。

予算案については1月開催の理事会においてさらに検討を行う事に決定した。

第4号議案 各委員会及び事業部報告

1. 企画委員会

山田企画委員長より、IMPリーグ参加チームの低落傾向が続いており、低落を食い止める（少なくとも今後の参加チーム数を現状維持とする）ための対策として、IMPリーグにかけられている平日係数の撤廃または見直し、5試合の対戦の場合2.5試合以上となっている出場回数の見直しについて競技委員会に検討を依頼したと説明があった。

2. センター協議委員会

山田センター協議委員長よりセクショナル以上の競技会への非会員参加に対する公認料を一部変更すること、CCG公認料の下限を設定することについて説明があった。

上記変更に伴う競技会主催・公認規則の改正案が提出され、検討の結果これを承認した。

3. 代表選抜委員会

橋本代表選抜委員長より第51回APBF選手権ウイメン日本代表選抜試合の結果について報告があり、以下のメンバーを日本代表とすることを承認した。

下保俊子、福吉由紀、柳澤彰子、高崎恵、野田祐子、佐藤牧子
代表チームよりNPCとして吉田正氏を指名する提案があり、これを承認した。

4. 競技委員会

寺本委員長より12月7日開催の競技委員会の内容について説明があり、IMPリーグに関する企画委員会の提案について検討を行い、IMPリーグに限り平日係数を撤廃すること、5試合のIMPリーグに限り出場回数の

条件を 2 試合とすることに決定したと報告があった。

この規定は 2017 年夏季リーグから適用とするが、会報での告知は間に合わないため、IMP リーグを開催する各センターへ通知すると説明があった。

5. 普及事業部

高野普及事業部長より「おとな時間 in 早稲田の杜」への体験教室の出展、初心者大会支援、教室助成、ジュニアクラブの報告があった。

6. 競技会事業部

ゲラー理事より BridgeMate の日本での新しい周波数変更申請の承認がおりたと報告があった。

前回の玉川高島屋 SC 杯優勝チームのメンバーの一部に APBF ウィメン代表メンバーが含まれているが、APBF 代表メンバーのチームと前回優勝チームの混成チームで参加料助成を認めて欲しいと要望があった。検討の結果従来の規定を変更しないことに決定したと報告があった。

大政競技会事業部長より第 21 回 NEC 杯の国外からの参加状況の報告があり、中国、韓国からの参加のチームが増加していると説明があった。

鈴木競技会事業部長代行より競技会事業部活動状況および資格獲得者の報告があった。

7. 国際交流事業部

大政国際交流事業部長より Yeh Bros 杯について、7月3日(月)から7日(金)の日程が確定したと報告があった。

8. 法人・管理部

清水法人・管理部担当理事より清水映樹事務局長代行に依頼して規則類の整備を行い、公益法人移行時における名称の変更漏れ修正のほかフォーマットや文書ファイル形式を統一し、改廃手続簡便化のため改廃条項のないものは「細則」や「要領」に変更する事としたと報告があった。

理事会承認の規則類については宮内弁護士に最終の確認を求めることとして、包括して修正を承認した。

第 5 号議案 四谷ブリッジセンター支援について

虎ノ門実業会館から 1 階会議室およびディーリングルームを地下 1 階に移設するための工事および作業費用の見積が提出され、この内容について清水事務局長代行より説明があった。

清水理事より、主に競技会に使用している 2 階部分は実際にはフル稼働していることはほとんどなく不採算部門であり、地下 1 階の普及活動は採算が取れている。地下 1 階へディーリングルームを移転しても経営の改善はできないと思われる。むしろ 2 階の縮小を検討すべきと発言があった。

これに対し山田理事より四谷ブリッジセンターはフロア別の採算についてま

とめておらず、全体として普及の赤字を競技会の収入で補っている構造であり、最近の赤字は競技会参加者の減少のために普及の赤字を補いきれないためであると発言があった。

検討の結果、四谷ブリッジセンターに連盟のレイアウト案を伝え、この案を受諾するかどうかについては翌週開催の四谷ブリッジセンター理事会の決定に委ねることとし、四谷ブリッジセンターが経営努力することを強く希望することを連盟理事会として伝えることに決定した。

第 6 号議案 その他議案

1. 次回の理事会開催について

次回理事会は 2017 年 1 月 27 日（金）午後 6 時 30 分に開催する。

当日配布書類：第 3 号議案 「予算案総括表」

第 4 号議案 「第 244 回競技委員会議事録」

「2017 NEC Cup Invitation Teams」

「競技会事業部活動報告」

「規則類の整備について」

第 5 号議案 「地下 1 階間仕切り・移転工事、1 階原状回復工事見積書」

「変更後レイアウトイメージ」

「四谷センターの経営採算性について（清水理事）」

平成 28 年 12 月 16 日（2016 年）

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第 37 回理事会

代表理事 鳩山 勝郎

監 事 成田 秀則